

平成 20 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 アライドテレシスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長 大 嶋 章 禎
(コード番号：6835 東証第 2 部)
問 合 せ 先 I R 部 原 洋 一
(TEL：03-5437-6007)
(URL <http://ir.at-global.com/>)

平成 19 年 12 月業績予想 (連結・個別) の修正に対する補足説明

平成 20 年 2 月 13 日付「平成 19 年 12 月期 業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」に対する補足説明をさせていただきます。

1 連結売上高について

昨年は市場のニーズに応え、価格、技術に優れた製品を開発/販売し、次世代の高速ネットワーク製品群の充実を図ってまいりました。この結果、連結売上高は538億200万円を予想しております。地域別に見ると、日本は、第4四半期には各種キャンペーンの実施等により、スイッチ製品の販売が好調となっております。特に利益率の高いスイッチの販売が伸びたため、売上総利益の向上に寄与しております。欧米は、通期で販売強化が功を奏し、成長、拡大しております。なお、欧州では市場の拡大にともない従来予想を高くしておりましたが、予想に届きませんでした。以上のように地域別の売上高については決算発表をお待ちください。

2 販売管理費における研究開発費について

研究開発費は前期に比べ約 10 億円削減しております。(対売上比 前期 11.9%から当期 9.8%)
主に I P トリプルプレイ事業への開発投資が、一段落したため研究開発費を削減し、ネットワーク機器事業の研究開発費にウェイトを移しました。
なお、連結営業利益が従来予想より 7 億 29 百万円好転しておりますが、研究開発費についても同約 2 億円削減しております。

3 個別業績予想で当期純利益について

個別業績については連結子会社の業績が改善した結果、売上高 68 億 70 百万円、営業損失 4 億 90 百万円、経常損失 2 億 30 百万円となり、経常損失が従来予想に比べ 5 億 33 百万円好転し、当期純利益については、子会社の株式評価損および税負担が増加したことで、同 3 億 84 百万の好転に留まりました。個別業績予想の当期純利益は、0 と表記しておりますが、赤字を脱却し、黒字となることを予想しております。

個別業績については各連結子会社の業績の回復により影響がでますので、確実に業績の回復が進んでいることをあらわしております。

次頁に「平成 19 年 12 月期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」を参考資料として添付しております。

以 上

各 位

会社名 アライドテレシスホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役会長 大嶋 章 禎
 (コード番号: 6835 東証第 2 部)
 問合せ先 IR 部 原 洋 一
 (TEL: 03-5437-6007)
 (URL <http://ir.at-global.com/>)

平成 19 年 12 月期業績予想 (連結・個別) の修正に関するお知らせ

平成 19 年 9 月 14 日付「平成 19 年 12 月期 中間決算短信」中の「業績予想」において公表いたしました平成 19 年 12 月期 (平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日) の業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成 19 年 12 月期 連結業績予想の修正 (平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	54,348	781	520	374
今回修正予想 (B)	53,820	1,510	800	40
増減額 (B-A)	△528	729	280	△334
増減率 (%)	△1.0%	93.3%	53.8%	△89.3%
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 12 月期)	52,729	△3,385	△3,345	△8,075

2. 平成 19 年 12 月期 個別業績予想の修正 (平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,783	△737	△763	△384
今回修正予想 (B)	6,870	△490	△230	0
増減額 (B-A)	87	247	533	384
増減率 (%)	1.3%	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 12 月期)	7,192	△1,195	△518	△8,428

3. 業績予想修正の理由

①連結

当期の連結業績につきましては、下記の要因により前回予想を修正することといたしました。

(1) 営業利益について

製品原価の低減が順調に進んだことに加え、高い利益率の製品売上が好調だったことなどにより売上総利益が向上し、リストラクチャリングをはじめとした利益体質作りが実を結び、販売管理費の圧縮となり、大幅な増益を達成しました。その結果、営業利益は、第 3 四半期に引き続き黒字となり、前回予想よりも 7 億 29 百万円 (93.3%) 増加し、15 億 10 百万円となります。

(2) 経常利益について

下期の円高により増加した通期為替差損 2 億 46 百万円および支払利息 1 億 75 百万円の増加など営業外費用が発生しましたが、営業利益の増加が補う結果となり、経常利益は、前回予想よりも 2 億 80 百万円 (53.8%) 増加し、8 億円となります。

(3) 当期純利益について

第 4 四半期では、特別損失として子会社における固定資産の減損損失 37 百万円、リストラクチャリング実施による事業再編費 56 百万円を追加計上し、国内子会社の損害賠償訴訟への引当金 49 百万円、国外子会社の現地輸出入法令違反への引当金 56 百万円を計上いたしました。また、子会社の業績回復にともない、税負担が 4 億円増加しました。その結果、当期純利益は、前回予想よりも 3 億 34 百万円 (89.3%) 減少し、40 百万円となります。

②個別

営業利益は開発費の削減により 2 億円改善しました。経常利益は 3 億円の為替差損が発生しましたが、連結子会社の業績が下期改善したため、貸付金に対する貸倒引当金等の計上額 6 億円が、中間期末予想よりも少なくなると判断したため、上方修正することといたします。

以上

(注) この資料に記載しております業績等の数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。